

玉総第 00873 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

玉城町長 辻 村 修



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、以下のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点

少子高齢化が進展する中、当町は、県内でも数少ない「人口増加の見込める町」となっています。この背景には、恵まれた住環境に加え、優良企業の立地による雇用創出などが下支えとなっていると考えられます。企業誘致を推進するにあたっては、交通環境の整備は必要条件となっており、日頃のご支援に改めて感謝申し上げます。

さて、昨今の道路行政は道路特定財源の議論に見られるように、意見や批判が少なくありません。しかしながら、地方では、公共交通の利用促進を図る一方で、その不便さから、自家用車の依存度が高い状況にあります。このような状況の中で、道路行政の推進にあたっては、暮らし満足度の向上を実感できることが重要であり、通勤通学時の渋滞緩和対策、安心安全を実感できる歩道整備、災害に強い道路網、景観に配慮した道路整備などが必要であると考えています。

また、多極分散型の中核圏においては、その特徴を活かすためにも、広域幹線道、高規格道路の整備はもとより、その接続道路の整備が急務であると考えます。

②-1 地域の現状と抱える課題

- ・ 交通量の増加による通学路の安全確保や高齢社会の進展に伴う「セニアカー（電動車いす）」への対策など、所要の安全対策が必要である。
- ・ 広域幹線道、高規格道路等への接続する道路の整備

②-2 目指すべき将来像

- ・ だれもが利用しやすい、安全・安心な道路

<次ページへ>

③道路施策の重点事項

景観を楽しむ路の活用

当町は熊野古道伊勢路の出立地であり、また周辺に田丸城跡を有するなど、その豊富な歴史文化資源を活用した取組みを推進しているところである。熊野古道の世界遺産登録後は、年々ウォーキングを楽しむ来訪客が増加する一方で、後継者不足、住宅の建て替え等によりその文化景観が失われつつあります。

文化的な景観の活用を支援することで、その資源が保全され、更には地域活性化が期待できると考えます。

以上